

第7次棚倉町振興計画策定のための  
町民アンケート調査結果報告書

棚 倉 町



# 目 次

I	調査の概要と回答者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法、回収結果	1
	(3) 本報告書の留意事項	2
2	回答者の属性	3
	(1) 性別	3
	(2) 年齢	3
	(3) 出身	3
	(4) 居住地区	3
II	調査結果	4
1	町への愛着度と定住意向などについて	4
	(1) 町への愛着度	4
	(2) 今後の定住意向	6
	(3) 棚倉町の魅力	8
	(4) 棚倉町の問題点	10
2	町の現状と今後の取り組みについて	12
	(1) 町の各環境に関する満足度	12
	(2) 町の各環境に関する重要度	21
	(3) 参考：満足度と重要度の相関[優先度]	29
	(4) 今後のまちづくりの特色	32
	資料：調査票	35



# I 調査の概要と回答者の属性

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

本調査は、第7次棚倉町振興計画（令和7年度～令和16年度）の策定にあたって、町への愛着度や今後の定住意向をはじめ、町の各環境に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、町民の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

### (2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	18歳以上の町民
配布数	3,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法とWEB方式の併用（郵送により調査票を配布し、回収は調査票の記入・返送あるいはWEBによる回答・返信）
調査時期	令和5年6月
有効回収数	1,104
有効回収率	36.8%

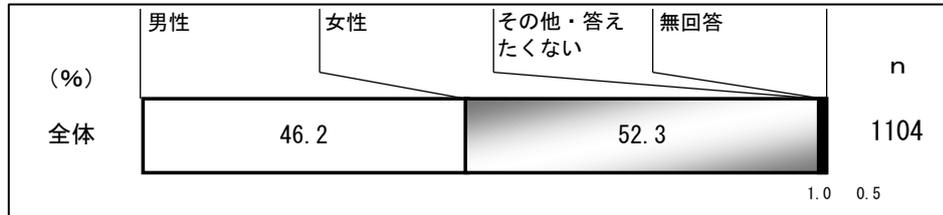
### (3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率 (%) で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が 100% を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数 (人数) は、“n = ○○○” として掲載し、各比率は n を 100% として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出してもよい問です。したがって、各回答の合計比率は 100% を超える場合があります。
- ④ 10 代の回答者が少数 (17 人・1.5%) であったため、調査結果 (P 4 以降) は、20 代 (68 人・6.2%) と統合し、「10・20 代」(85 人・7.7%) として分析しています。
- ⑤ 山岡地区の回答者が少数 (19 人・1.7%) でしたが、調査結果 (P 4 以降) は、他地区と統合せずに山岡地区として分析しています。したがって、居住地区別の山岡地区の結果は、統計学的に有意性の低いものも含まれています。
- ⑥ 「中学生アンケート調査」の結果と比較している部分がありますが、本調査は、令和 5 年 6 月に、棚倉中学校の生徒全員 401 人を対象に実施したものであり、有効回収数は 367、有効回収率は 91.5% となっています。

## 2 回答者の属性

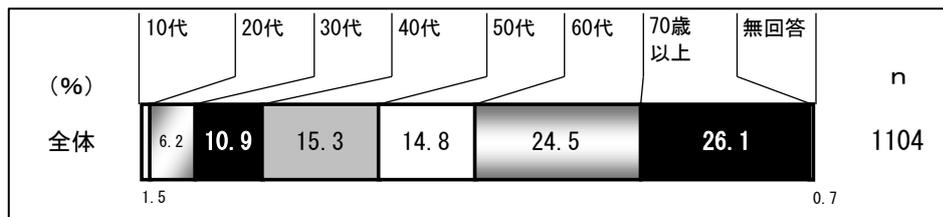
### (1) 性別

回答者の性別は、「女性」が 52.3%、「男性」が 46.2%、「その他・答えたくない」が 1.0%となっています。



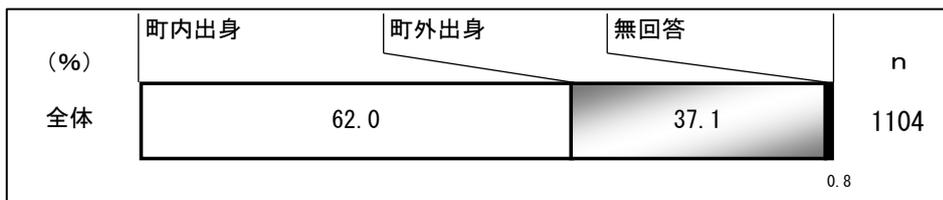
### (2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」(26.1%)、「60代」(24.5%)、「40代」(15.3%)、「50代」(14.8%)、「30代」(10.9%)、「20代」(6.2%)、「10代」(1.5%)の順となっています。



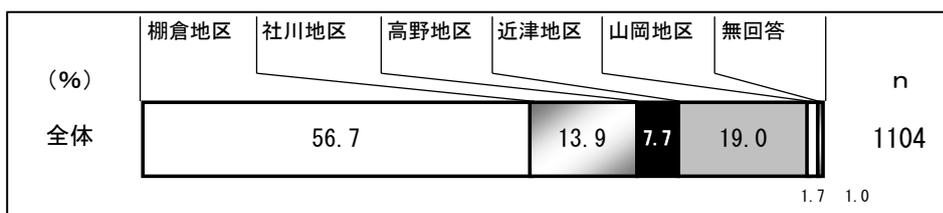
### (3) 出身

回答者の出身は、「町内出身」が 62.0%、「町外出身」が 37.1%となっています。



### (4) 居住地区

回答者の居住地区は、「棚倉地区」(56.7%)、「近津地区」(19.0%)、「社川地区」(13.9%)、「高野地区」(7.7%)、「山岡地区」(1.7%)の順となっています。



## Ⅱ 調査結果

### 1 町への愛着度と定住意向などについて

#### (1) 町への愛着度

問2 あなたは、棚倉町に愛着を感じていますか。

● “愛着を感じている”が70.3%。“愛着を感じていない”が7.2%。

町民の町への愛着度を把握するため、「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかといえば愛着を感じている」と答えた人が35.5%で最も多く、次いで「愛着を感じている」が34.8%で、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が70.3%と約7割にのぼっています。これに対し、“愛着を感じていない”(「どちらかといえば愛着を感じていない」3.8%と「愛着を感じていない」3.4%の合計)という人は7.2%と1割に満たず、町への愛着度は高いといえます。

中学生アンケートの結果と比較すると、“愛着を感じている”という率はほぼ同様で、愛着度は町民と中学生とで大きな違いはみられません。

属性別で“愛着を感じている”という率をみると、性別では、男性(75.3%)が女性(67.6%)を約8ポイント上回り、愛着度は男性の方がかなり高い(女性の方がかなり低い)ことがうかがえます。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70歳以上(78.9%)では8割弱にのぼっていますが、10・20代(58.9%)では6割に満たず、若年層の愛着度の低さが目立っています。

出身別では、町内出身(75.3%)が町外出身(62.7%)を約13ポイント上回り、愛着度は町内出身の方が大幅に高い(町外出身の方が大幅に低い)ことがうかがえます。

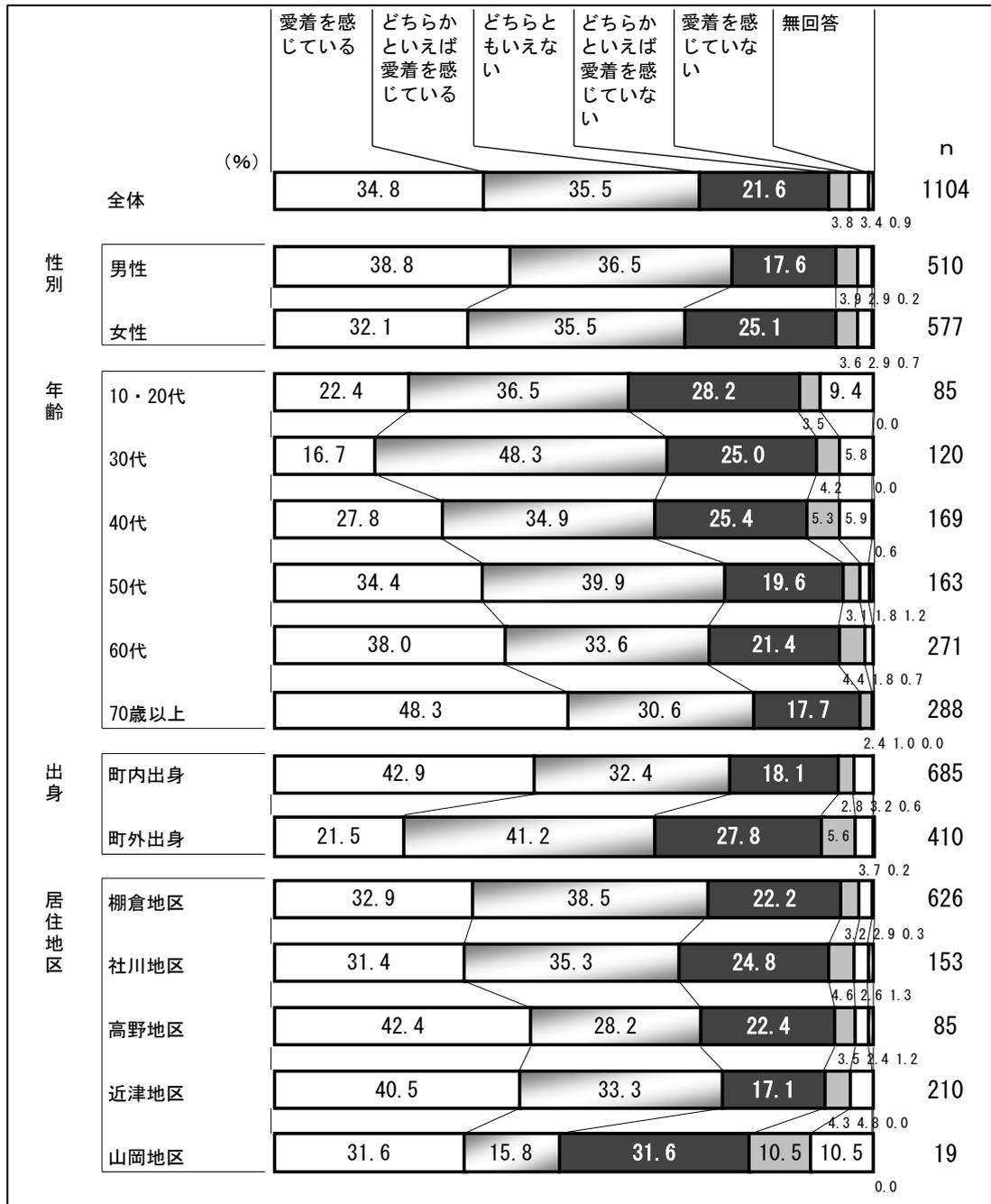
居住地区別では、高い順に、近津地区(73.8%)、棚倉地区(71.4%)、高野地区(70.6%)、社川地区(66.7%)、山岡地区(47.4%)となっており、山岡地区の愛着度の低さが目立っています。

これらのことから、愛着度が低い女性や若年層、町外出身者、山岡地区の愛着度をいかに高めていくかが今後の課題の一つとしてあげられます。[図表1参照]

#### 【比較】

中学生アンケート “愛着を感じている”が71.3%、“愛着を感じていない”が8.8%

図表1 町への愛着度（全体・性別・年齢・出身・居住地区）



## (2) 今後の定住意向

問3 あなたは、今後も棚倉町に住みたいと思いますか。

● “住みたい” が 67.8%、“住みたくない” が 8.3%。

町民の今後の定住意向を把握するため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「住みたい」と答えた人が 42.8 で最も多く、次いで「どちらかといえば住みたい」が 25.0%で、これらをあわせた“住みたい”という人が 67.8%と7割弱にのぼっています。これに対し、“住みたくない”（「どちらかといえば住みたくない」5.2%と「住みたくない」3.1%の合計）という人は 8.3%と1割に満たず、問2の町への愛着度と同様に、定住意向も強いといえます。

中学生アンケートの結果と比較すると、“住みたい”という率は町民が中学生を約35ポイント上回り、定住意向は町民の方が特に強い（中学生の方が特に弱い）ことがうかがえます。

属性別で“住みたい”という率をみると、性別では、男性（72.2%）が女性（65.7%）を約7ポイント上回り、問2の愛着度と同様に、定住意向も男性の方がかなり強い（女性の方がかなり弱い）ことがうかがえます。

年齢別では、年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70歳以上（82.3%）では8割を超えて高くなっていますが、10・20代（38.8%）では4割に満たず、若年層の定住意向の弱さが目立っています。

出身別では、町内出身（72.4%）が町外出身（61.5%）を約11ポイント上回り、やはり問2の町への愛着度と同様に、定住意向も町内出身の方が大幅に高い（町外出身の方が大幅に低い）ことがうかがえます。

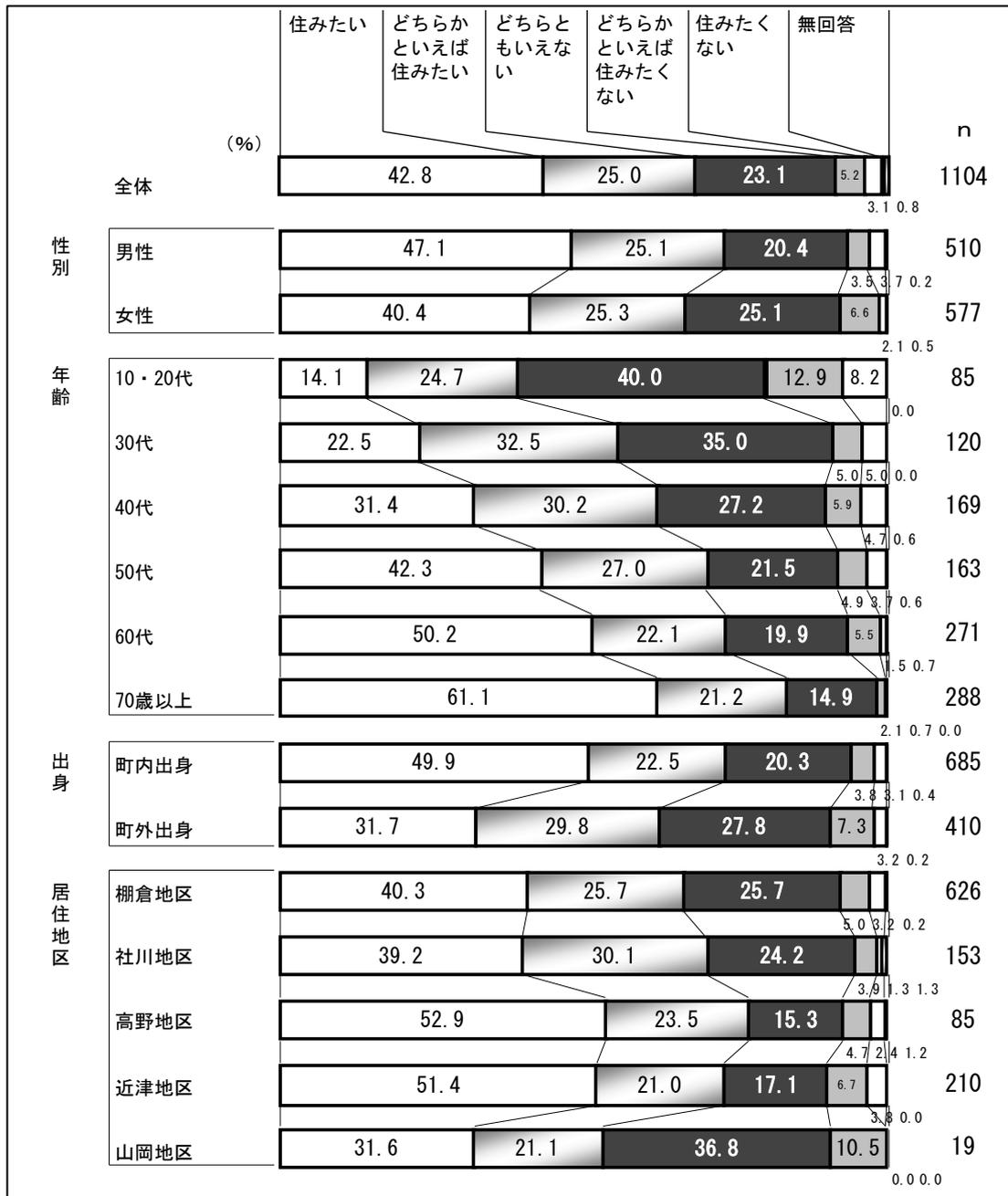
居住地区別では、高い順に、高野地区（76.4%）、近津地区（72.4%）、社川地区（69.3%）、棚倉地区（66.0%）山岡地区（52.7%）となっており、これについても問2の愛着度と同様に、山岡地区の定住意向の弱さ目立っています。

これらのことから、定住意向が弱い女性や若年層、町外出身者、山岡地区の定住意向をいかに高めていくかが今後の課題の一つとしてあげられます。[図表2参照]

### 【比較】

中学生アンケート “住みたい” が 32.5%、“住みたくない” が 24.0%

図表2 今後の定住意向（全体・性別・年齢・出身・居住地区）



### (3) 棚倉町の魅力

問4 あなたは、棚倉町の魅力は何だと思いますか。【複数回答】

- 「自然が豊かである」が他を大きく引き離して第1位、次いで「買物の便がよい」、「歴史文化や伝統芸能がある」の順。

町の魅力については、「自然が豊かである」(57.5%)が他を大きく引き離して第1位で、“自然の豊かさ”を町の魅力と感じている人が特に多くなっています。

これ以外では、「買物の便がよい」(24.6%)、「歴史文化や伝統芸能がある」(22.6%)の順で、“買物の便利さ”と“歴史的・文化的資源の存在”を町の魅力と感じる人も一定数にのぼっています。

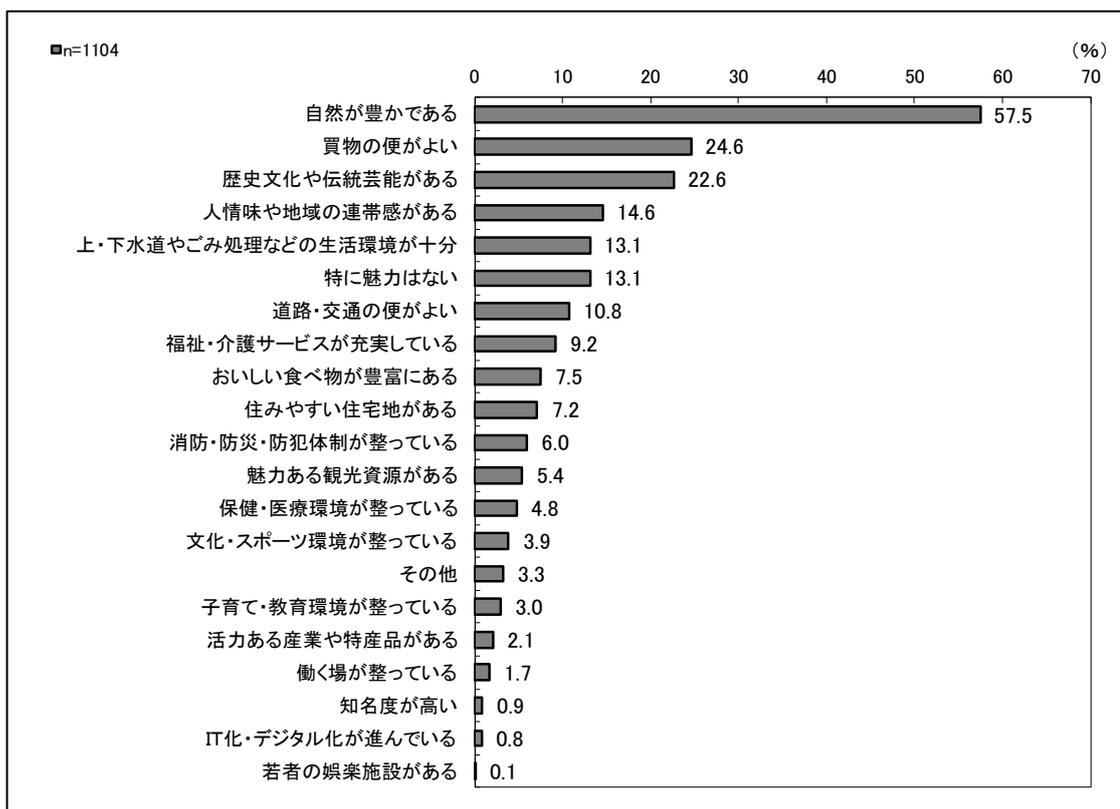
中学生アンケートの結果と比較すると、“自然の豊かさ”をはじめ、“歴史的・文化的資源の存在”や“人のやさしさ”は共通して上位にあげられていますが、町民で第2位の“買物の便利さ”が中学生では第13位で、買物環境の評価が大人と子どもで大きく異なることが特徴としてあげられます。

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「自然が豊かである」が第1位、その他の上位回答も町全体とほぼ同様で、大きな違いはみられません。[図表3・4参照]

#### 【比較】

中学生アンケート 「自然が豊かである」、「人がやさしい」、「歴史的なものが多い」の順。

図表3 棚倉町の魅力（全体／複数回答）



図表4 棚倉町の魅力

(全体・性別・年齢・出身・居住地区—上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		自然が豊かである 57.5	買物の便がよい 24.6	歴史文化や伝統芸能がある 22.6
性別	男性	自然が豊かである 58.8	歴史文化や伝統芸能がある 27.6	買物の便がよい 19.4
	女性	自然が豊かである 57.5	買物の便がよい 29.6	歴史文化や伝統芸能がある 18.7
年齢	10・20代	自然が豊かである 55.3	特に魅力はない 22.4	歴史文化や伝統芸能がある 21.2
	30代	自然が豊かである 48.3	買物の便がよい 34.2	歴史文化や伝統芸能がある 24.2
	40代	自然が豊かである 54.4	歴史文化や伝統芸能がある 23.1	買物の便がよい 22.5
	50代	自然が豊かである 55.8	歴史文化や伝統芸能がある 31.9	買物の便がよい 19.6
	60代	自然が豊かである 59.8	買物の便がよい 25.8	歴史文化や伝統芸能がある 19.9
	70歳以上	自然が豊かである 63.9	買物の便がよい 26.0	上・下水道やごみ処理などの生活環境が十分 22.2
出身	町内出身	自然が豊かである 59.9	歴史文化や伝統芸能がある 24.8	買物の便がよい 21.2
	町外出身	自然が豊かである 54.1	買物の便がよい 30.7	歴史文化や伝統芸能がある 19.3
居住地区	棚倉地区	自然が豊かである 59.9	歴史文化や伝統芸能がある 24.8	買物の便がよい 21.2
	社川地区	自然が豊かである 54.1	買物の便がよい 30.7	歴史文化や伝統芸能がある 19.3
	高野地区	自然が豊かである 55.0	買物の便がよい 28.4	歴史文化や伝統芸能がある 22.4
	近津地区	自然が豊かである 61.4	歴史文化や伝統芸能がある 22.9	買物の便がよい 19.6
	山岡地区	自然が豊かである 71.8	歴史文化や伝統芸能がある／人情味や地域の連帯感がある	22.4

#### (4) 棚倉町の問題点

問5 あなたは、棚倉町の問題点は何だと思いますか。【複数回答】

- 「働く場が少ない」が第1位、次いで「活力ある産業や特産品が少ない」、「若者の娯楽施設が少ない」の順。

町の問題点については、「働く場が少ない」(37.4%)が第1位、「活力ある産業や特産品が少ない」(29.4%)第2位、「若者の娯楽施設が少ない」(28.8%)が第3位で、これらは以下をやや引き離しており、“雇用の場の不足”と“産業・特産品の少なさ”、“若者の遊び場の少なさ”が町民が感じる町の問題点の代表となっています。

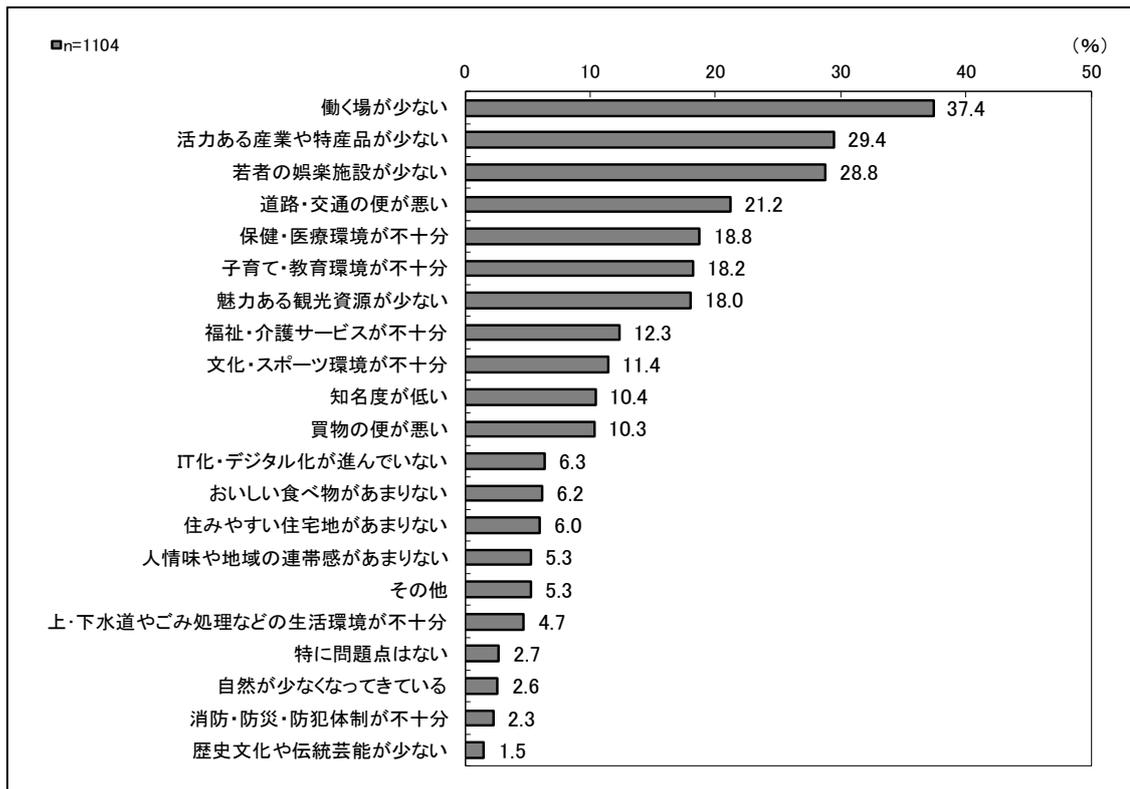
中学生アンケートの結果と比較すると、中学生では、町民で第3位の“若者の遊び場の少なさ”に回答が集中しているほか、“観光資源の少なさ”や“デジタル化の遅れ”が指摘されており、大人と子どもで、問題点と感じることに大きな違いがみられます。

属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「働く場が少ない」が第1位ですが、10・20代、30代、40代では「若者の娯楽施設が少ない」(55.3%・40.0%・40.8%)、山岡地区では「活力ある産業や特産品が少ない」(38.8%)が第1位で、40代以下の層では“若者の遊び場の少なさ”、山岡地区では“産業・特産品の少なさ”が最も強く指摘されており、特徴的な結果となっています。[図表5・6参照]

#### 【比較】

中学生アンケート 「若者の遊ぶ場所が少ない」、「多くの人が訪れる場所が少ない」、「A I やロボット活用などデジタル化が進んでいない」の順。

図表5 棚倉町の問題点（全体／複数回答）



図表6 棚倉町の問題点

(全体・性別・年齢・出身・居住地区—上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		働く場が少ない 37.4	活力ある産業や特産品が少ない 29.4	若者の娯楽施設が少ない 28.8
性別	男性	働く場が少ない 38.0	活力ある産業や特産品が少ない 29.8	若者の娯楽施設が少ない 24.3
	女性	働く場が少ない 36.7	若者の娯楽施設が少ない 32.8	活力ある産業や特産品が少ない 29.5
年齢	10・20代	若者の娯楽施設が少ない 55.3	道路・交通の便が悪い 30.6	働く場が少ない 27.1
	30代	若者の娯楽施設が少ない 40.0	子育て・教育環境が不十分 37.5	働く場が少ない 25.0
	40代	若者の娯楽施設が少ない 40.8	働く場が少ない 31.4	子育て・教育環境が不十分 26.0
	50代	働く場が少ない 41.7	活力ある産業や特産品が少ない 32.5	若者の娯楽施設が少ない 31.3
	60代	働く場が少ない 41.3	活力ある産業や特産品が少ない 33.6	道路・交通の便が悪い 22.9
	70歳以上	働く場が少ない 43.4	活力ある産業や特産品が少ない 41.7	魅力ある観光資源が少ない 20.5
出身	町内出身	働く場が少ない 38.4	活力ある産業や特産品が少ない 29.5	若者の娯楽施設が少ない 27.7
	町外出身	働く場が少ない 35.9	若者の娯楽施設が少ない 31.0	活力ある産業や特産品が少ない 29.8
居住地区	棚倉地区	働く場が少ない 38.4	活力ある産業や特産品が少ない 29.5	若者の娯楽施設が少ない 27.7
	社川地区	働く場が少ない 35.9	若者の娯楽施設が少ない 31.0	活力ある産業や特産品が少ない 29.8
	高野地区	働く場が少ない 38.0	若者の娯楽施設が少ない 29.6	活力ある産業や特産品が少ない 28.4
	近津地区	働く場が少ない 28.8	道路・交通の便が悪い 24.8	若者の娯楽施設が少ない 23.5
	山岡地区	活力ある産業や特産品が少ない 38.8	働く場が少ない 34.1	道路・交通の便が悪い 28.2

## 2 町の現状と今後の取り組みについて

### (1) 町の各環境に関する満足度

問6 棚倉町では、これまで第6次棚倉町振興計画（平成27年度～令和6年度）に基づき、各分野にわたる様々な取り組みを進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。  
(1) 満足度：あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。

- 満足度が最も高いのは「水道の状況」、次いで「消防・救急体制」、「健康づくりに関する取り組み」の順。
- 満足度が最も低いのは「企業誘致等に関する取り組み」、次いで「雇用対策」、「公共交通の状況」の順。

町の各環境について、現在どの程度満足しているかを把握するため、第6次棚倉町振興計画に基づいて6分野 42項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない・わからない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、満足度が最も高いのは「水道の状況」（1.74点）で、次いで第2位が「消防・救急体制」（1.53点）、第3位が「健康づくりに関する取り組み」（1.33点）、続いて「ごみ処理・リサイクル体制」（1.09点）、「防災体制」（1.00点）、「交通安全体制」・「排水処理の状況」（同点0.89点）、「生涯学習環境」（0.53点）、「高齢者支援体制」（0.33点）、「防犯体制」（0.32点）の順となっています。

一方、満足度が最も低いのは「企業誘致等に関する取り組み」（-1.44点）で、次いで第2位が「雇用対策」（-1.15点）、第3位が「公共交通の状況」（-1.06点）、続いて「商業振興に関する取り組み」（-1.05点）、「移住・定住促進対策」（-0.82点）、「土地利用の状況」（-0.71点）、「農業振興に関する取り組み」（-0.67点）、「工業振興に関する取り組み」（-0.62点）、「公園・緑地の整備状況」（-0.57点）、「観光振興に関する取り組み」・「森林整備・保全に関する取り組み」（同点-0.49点）の順となっています。

全体的にみると、安全・安心・環境保全分野と保健・医療・福祉分野の満足度が比較的高く、産業分野と都市基盤分野、協働・交流・行財政分野、そして移住・定住促進対策の満足度が低くなっており、42項目のうち、満足度がプラス評価の項目が17項目、マイナス評価の項目が25項目となっています。〔図表7参照〕

また、これを居住地区別でみると、以下のとおりとなっています。

### 棚倉地区

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の状況」(1.58点)、第2位が「消防・救急体制」(1.35点)、第3位が「健康づくりに関する取り組み」(1.20点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「企業誘致等に関する取り組み」(-1.36点)、第2位が「雇用対策」(-1.15点)、第3位が「商業振興に関する取り組み」(-1.09点)となっています。

42項目のうち、プラス評価の項目が13項目、マイナス評価の項目が29項目で、プラス評価の項目が町全体よりも4項目少なく、評価がやや厳しくなっています。[図表8参照]

### 社川地区

満足度の上位3項目は、第1位が「消防・救急体制」(1.38点)、「水道の状況」(1.19点)、「健康づくりに関する取り組み」(1.06点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況」(-1.51点)、第2位が「公園・緑地の整備状況」(-1.02点)、第3位が「企業誘致等に関する取り組み」(-1.01点)となっています。

42項目のうち、プラス評価の項目が11項目、マイナス評価の項目が30項目、中間点が1項目で、プラス評価の項目が町全体よりも6項目少なく、評価が厳しくなっています。[図表8参照]

### 高野地区

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の状況」(2.53点)、第2位が「健康づくりに関する取り組み」(2.37点)、第3位が「消防・救急体制」(2.26点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況」(-2.13点)、第2位が「商業振興に関する取り組み」(-1.51点)、第3位が「企業誘致等に関する取り組み」(-1.25点)となっています。

42項目のうち、プラス評価の項目が17項目、マイナス評価の項目が22項目、中間点が3項目で、プラス評価の項目は町全体と同数となっています。[図表8参照]

### 近津地区

満足度の上位3項目は、第1位が「水道の状況」(2.27点)、第2位が「消防・救急体制」(1.83点)、第3位が「健康づくりに関する取り組み」(1.47点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「企業誘致等に関する取り組み」(-1.93点)、第2位が「雇用対策」(-1.44点)、第3位が「商業振興に関する取り組み」(-1.14点)となっています。

42項目のうち、プラス評価の項目が22項目、マイナス評価の項目が19項目、中間点が1項目で、プラス評価の項目が町全体よりも5項目多く、評価がやや高くなっています。[図表8参照]

## 山岡地区

満足度の上位3項目は、第1位が「ごみ処理・リサイクル体制」(4.00点)、第2位が「水道の状況」・「排水処理の状況」(同点3.33点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「雇用対策」(-1.47点)、第2位が「土地利用の状況」(-1.18点)、第3位が「学校教育環境」(-1.00点)となっています。

42項目のうち、プラス評価の項目が32項目、マイナス評価の項目が6項目、中間点が4項目で、プラス評価の項目が町全体よりも15項目多く、評価が大幅に高くなっています。[図表8参照]

### ※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(満足度)を算出する。

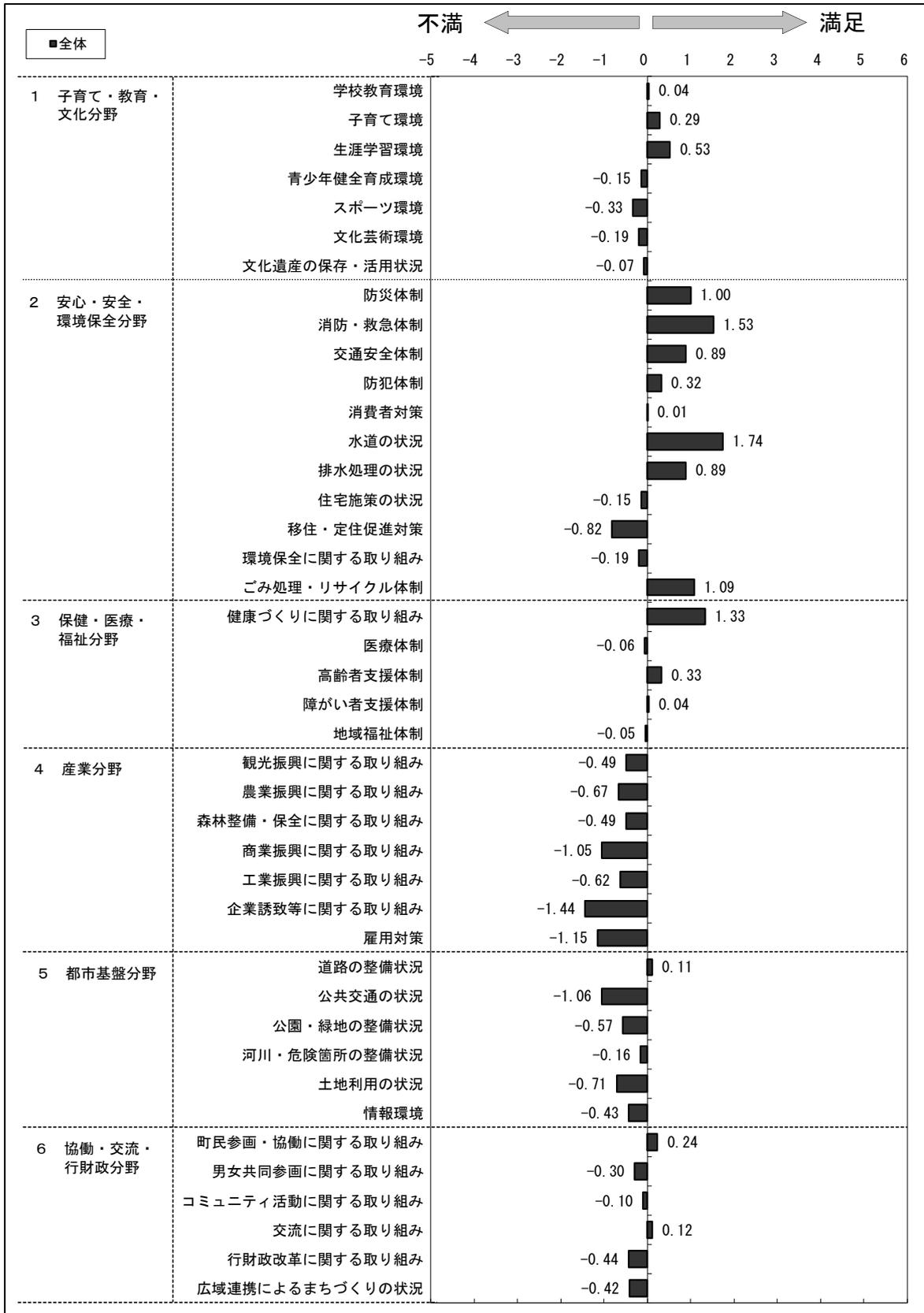
$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない・わからない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらか} \\ \text{といえば満足している」、「ど} \\ \text{ちらともいえない・わからない} \\ \text{」、「どちらかといえば不満} \\ \text{である」、「不満である」の回} \\ \text{答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表7 町の各環境に関する満足度（全体）

全体

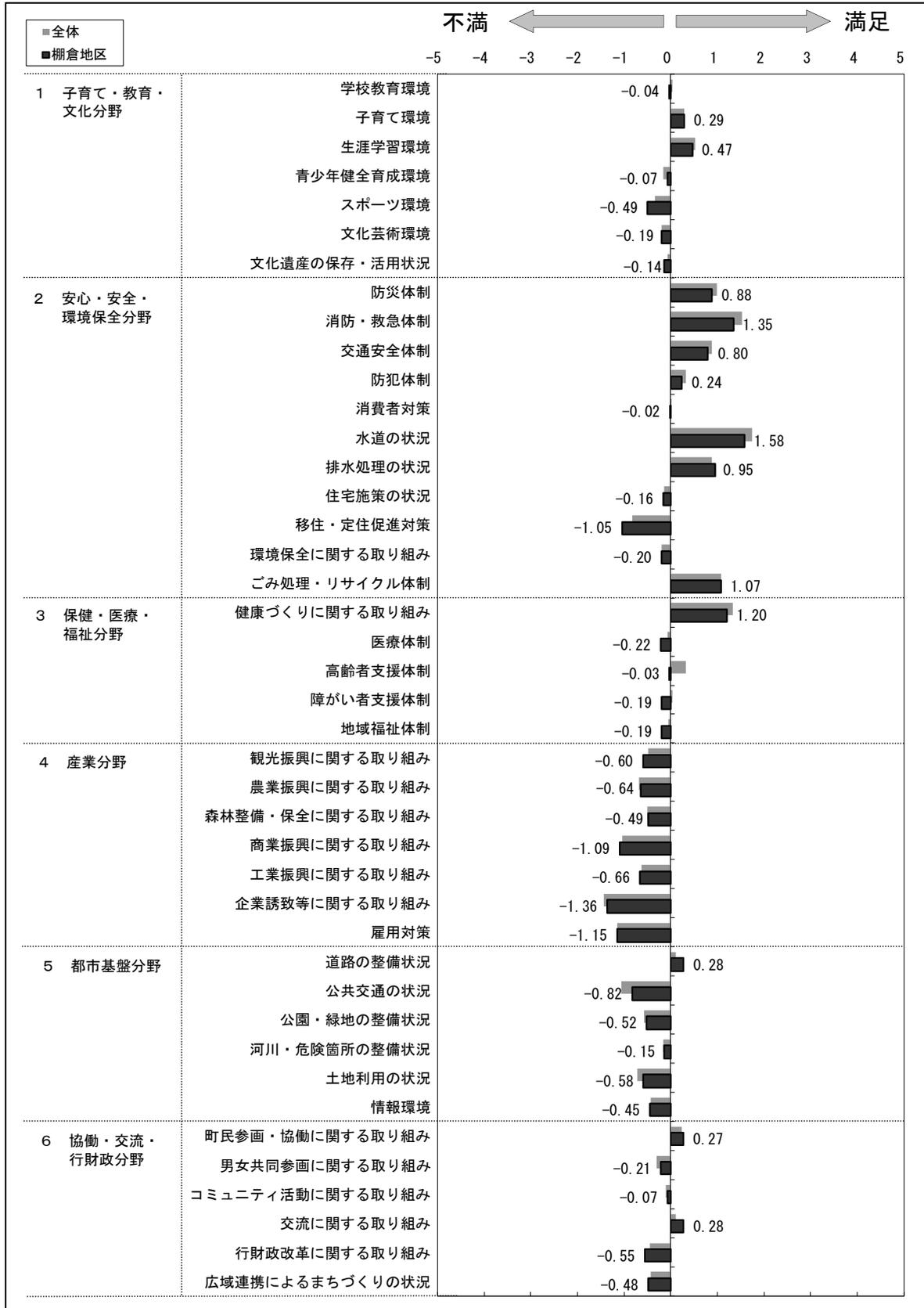
（単位：評価点）



図表8 町の各環境に関する満足度（居住地区）

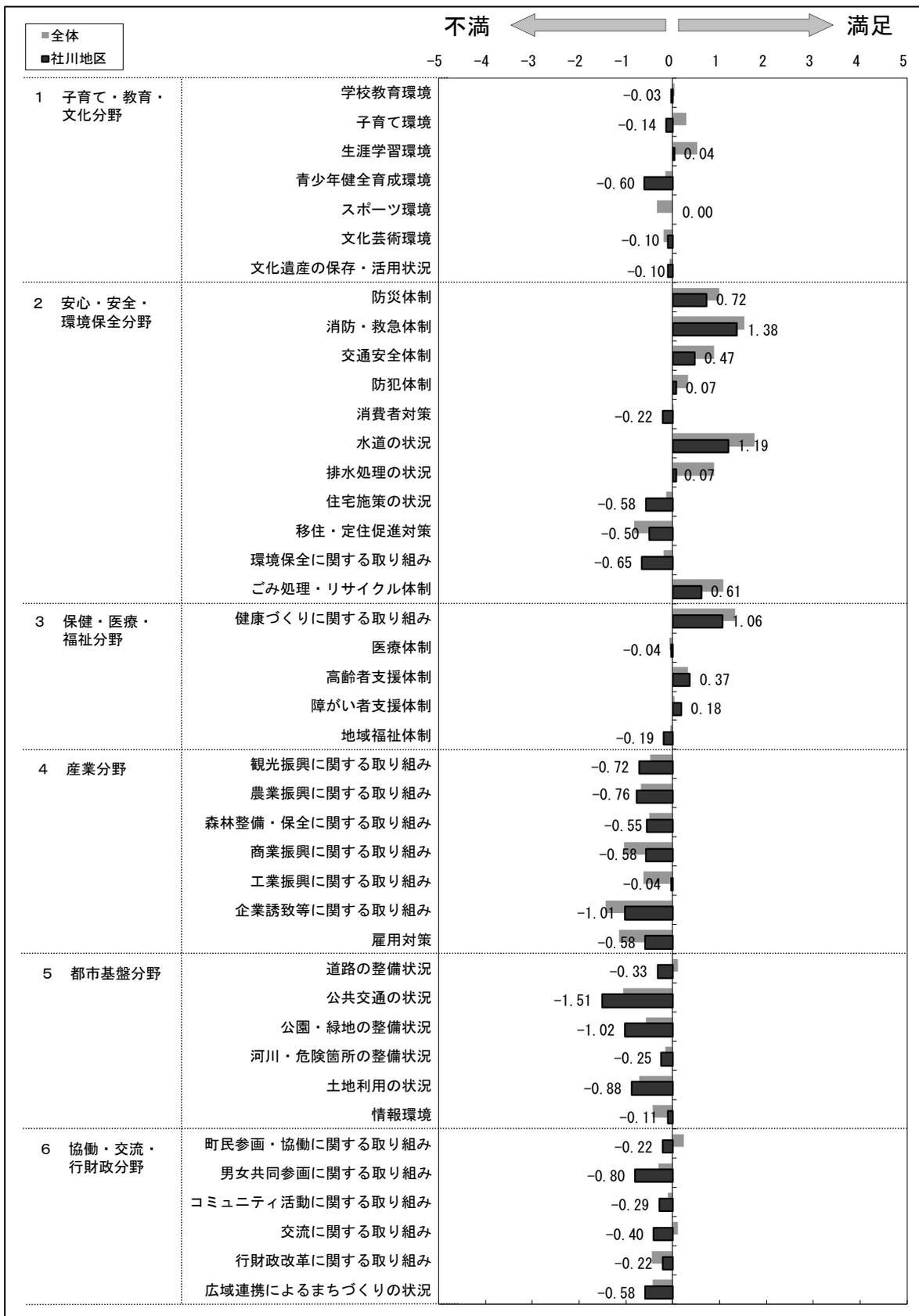
棚倉地区

（単位：評価点）



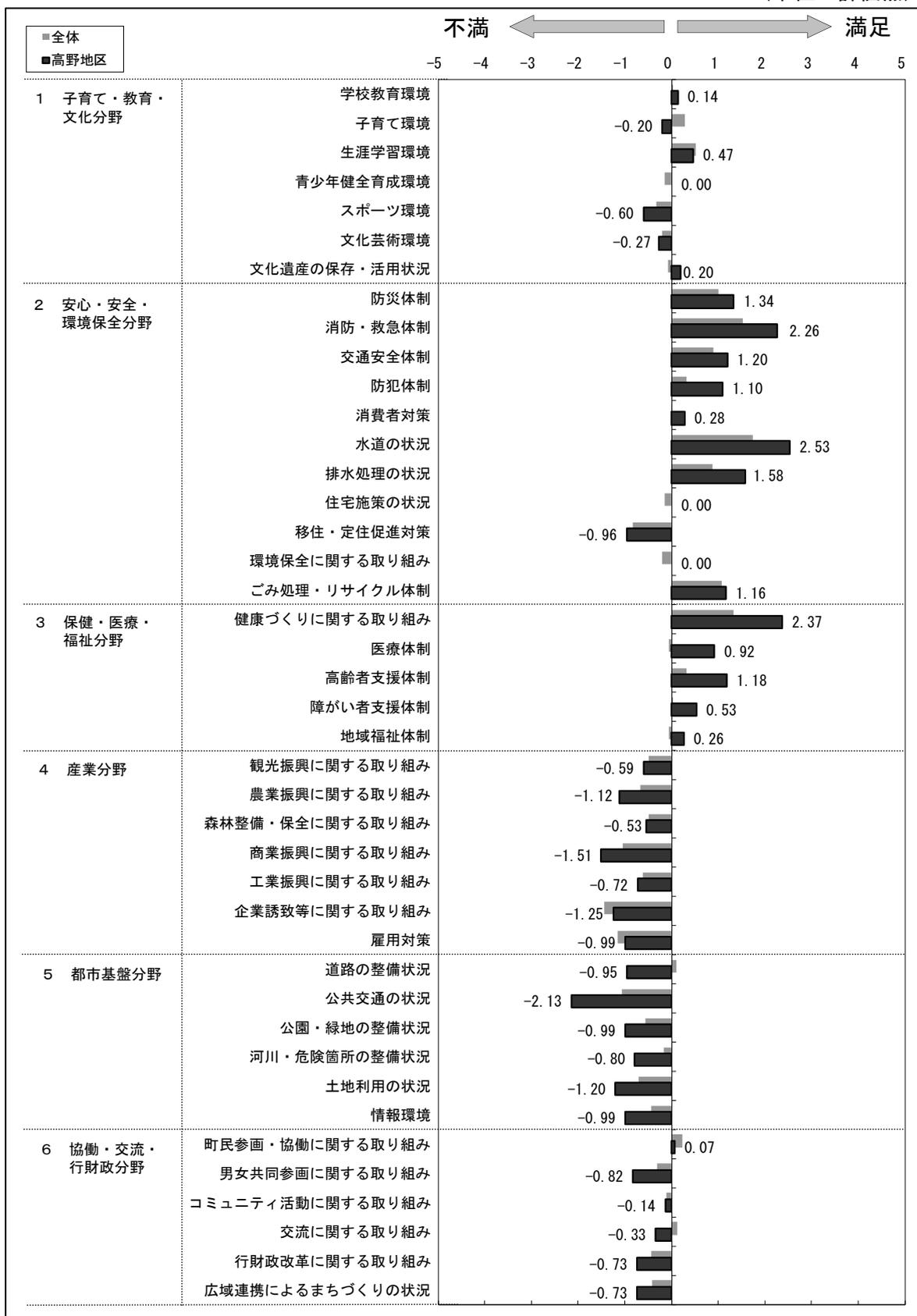
# 社川地区

(単位：評価点)



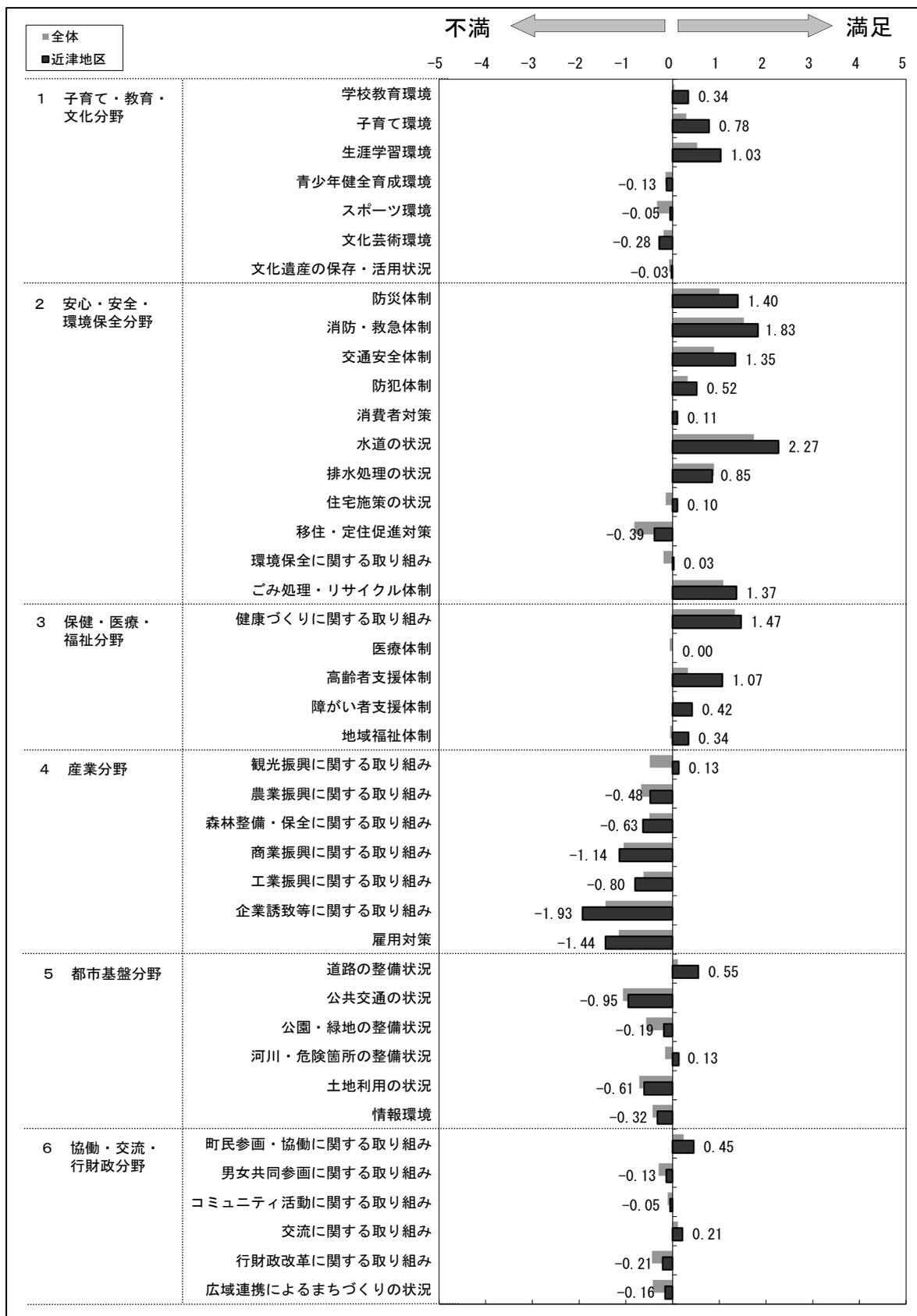
# 高野地区

(単位：評価点)



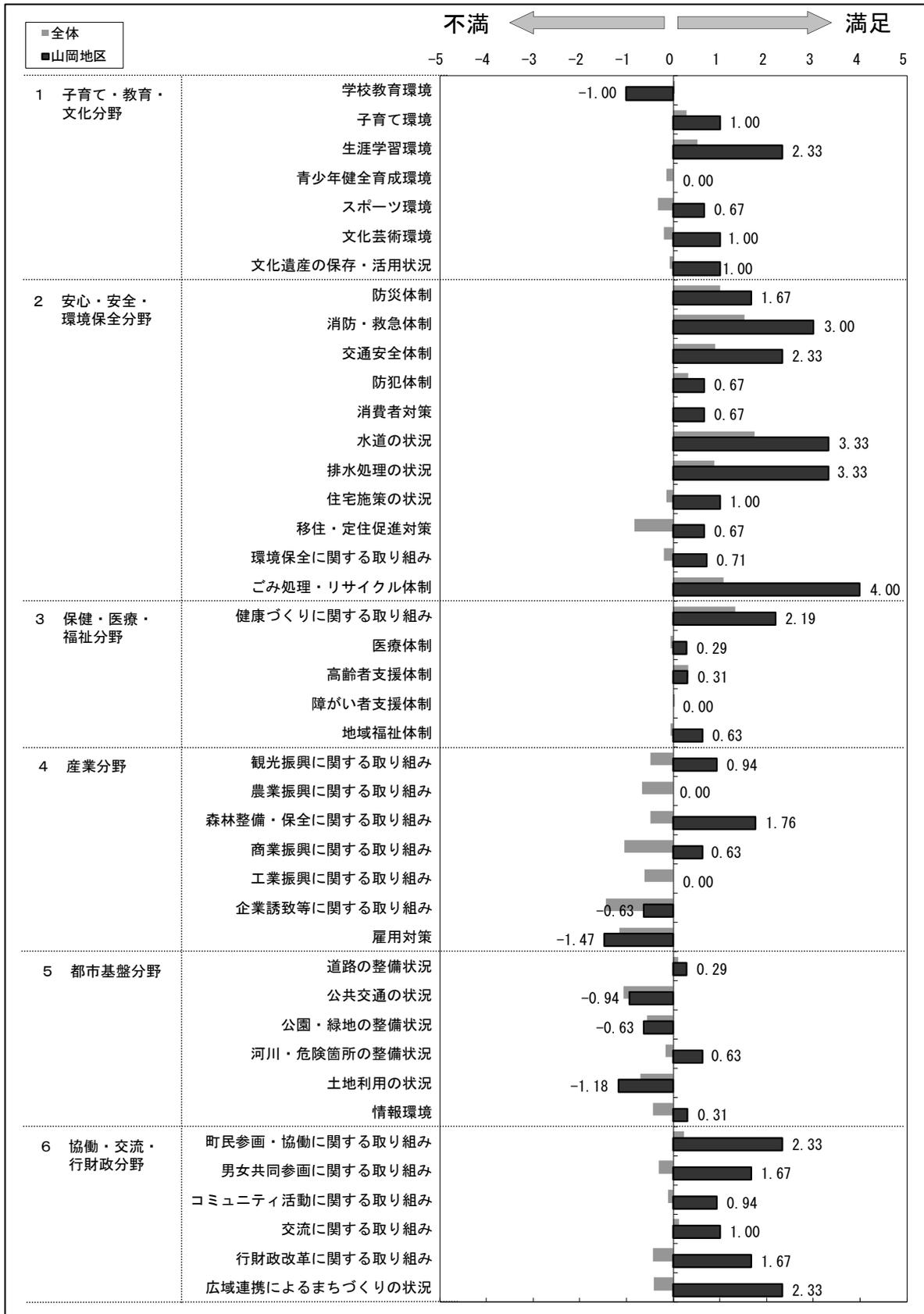
# 近津地区

(単位：評価点)



# 山岡地区

(単位：評価点)



## (2) 町の各環境に関する重要度

問6 棚倉町では、これまで第6次棚倉町振興計画（平成27年度～令和6年度）に基づき、各分野にわたる様々な取り組みを進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。  
(2) 重要度：あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。

- 重要度が最も高い項目は「医療体制」、次いで「水道の状況」、「消防・救急体制」、「高齢者支援体制」、「防災体制」、「ごみ処理・リサイクル体制」、「健康づくりに関する取り組み」の順。

町の各環境について、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ6分野42項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない・わからない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

この結果、重要度が最も高いのは「医療体制」（3.28点）で、次いで第2位が「水道の状況」（3.15点）、第3位が「消防・救急体制」（2.96点）、続いて「高齢者支援体制」（2.94点）、「防災体制」（2.81点）、「ごみ処理・リサイクル体制」（2.77点）、「健康づくりに関する取り組み」（2.76点）、「道路の整備状況」（2.64点）、「防犯体制」（2.63点）、「交通安全体制」（2.46点）の順となっています。

これら上位10項目をみると、安全・安心・環境保全分野の項目が6項目、保健・医療・福祉分野の項目が3項目、都市基盤分野の項目が1項目で、“安全・安心・快適なまちづくり”と“保健・医療・福祉の充実”が重視されていることがうかがえます。〔図表9参照〕

また、これを居住地区別でみると、以下のとおりとなっています。

### 棚倉地区

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」（3.09点）、第2位が「水道の状況」（2.93点）、第3位が「消防・救急体制」（2.84点）、第4位が「防災体制」（2.81点）、第5位が「高齢者支援体制」（2.63点）となっています。

これら上位項目を中心に、町全体と比較すると、項目・順位ともに町全体とほぼ同様で、大きな違いはみられません。〔図表10参照〕

### 社川地区

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」（2.73点）、第2位が「水道の状況」（2.69点）、第3位が「高齢者支援体制」（2.58点）、第4位が「企業誘致等に関する取り組み」（2.46点）、第5位が「ごみ処理・リサイクル体制」（2.39点）の順となっています。

これら上位項目を中心に、町全体と比較すると、町全体で第11位の「企業誘致等に関する取り組み」が第4位になっていることが特徴としてあげられます。〔図表10参照〕

### 高野地区

重要度の上位5項目は、第1位が「消防・救急体制」(3.82点)、第2位が「水道の状況」(3.75点)、第3位が「子育て環境」(3.70点)、第4位が「医療体制」(3.68点)、第5位が「学校教育環境」(3.54点)の順となっています。

これら上位項目を中心に、町全体と比較すると、町全体で第3位の「消防・救急体制」が第1位になっていること、町全体で第14位の「子育て環境」が第3位になっていること、町全体で第16位の「学校教育環境」が第5位になっていることが特徴としてあげられます。[図表10参照]

### 近津地区

重要度の上位5項目は、第1位が「医療体制」(3.76点)、第2位が「水道の状況」(3.75点)、第3位が「高齢者支援体制」(3.74点)、第4位が「消防・救急体制」(3.49点)、第5位が「道路の整備状況」(3.47点)の順となっています。

これら上位項目を中心に、町全体と比較すると、項目・順位ともに町全体とほぼ同様で、大きな違いはみられません。[図表10参照]

### 山岡地区

重要度の上位5項目は、第1位が「高齢者支援体制」(5.33点)、第2位が「消防・救急体制」・「防犯体制」・「医療体制」・「道路の整備状況」・「河川・危険箇所の整備状況」(同点5.00点)となっています。

これら上位項目を中心に、町全体と比較すると、町全体で第4位の「高齢者支援体制」が第1位になっていること、町全体で第8位の「道路の整備状況」と町全体で第13位の「河川・危険箇所の整備状況」が第2位になっていることが特徴としてあげられます。[図表10参照]

#### ※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(重要度)を算出する。

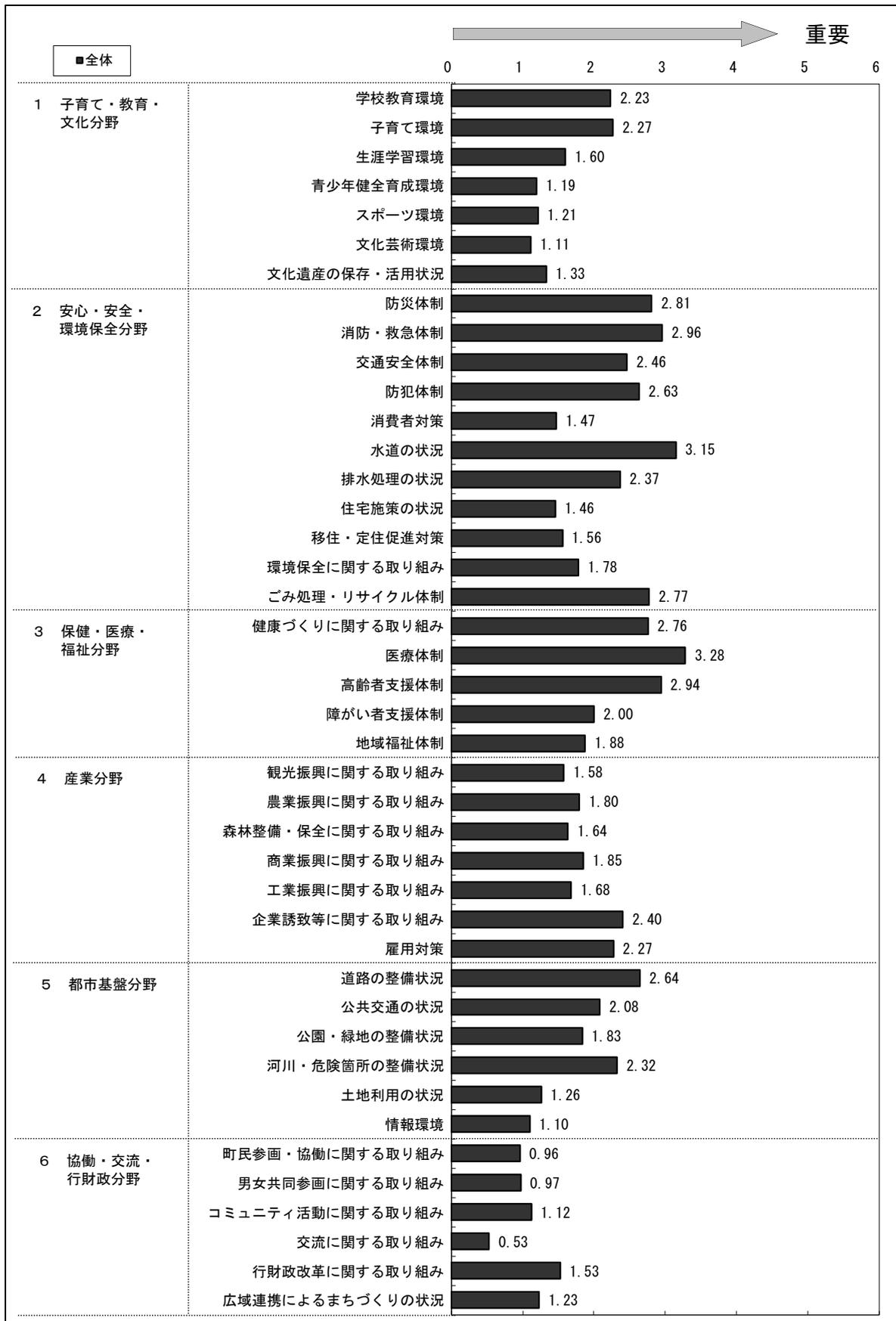
$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない・わからない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない・わからない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(重要度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表9 町の各環境に関する重要度（全体）

全体

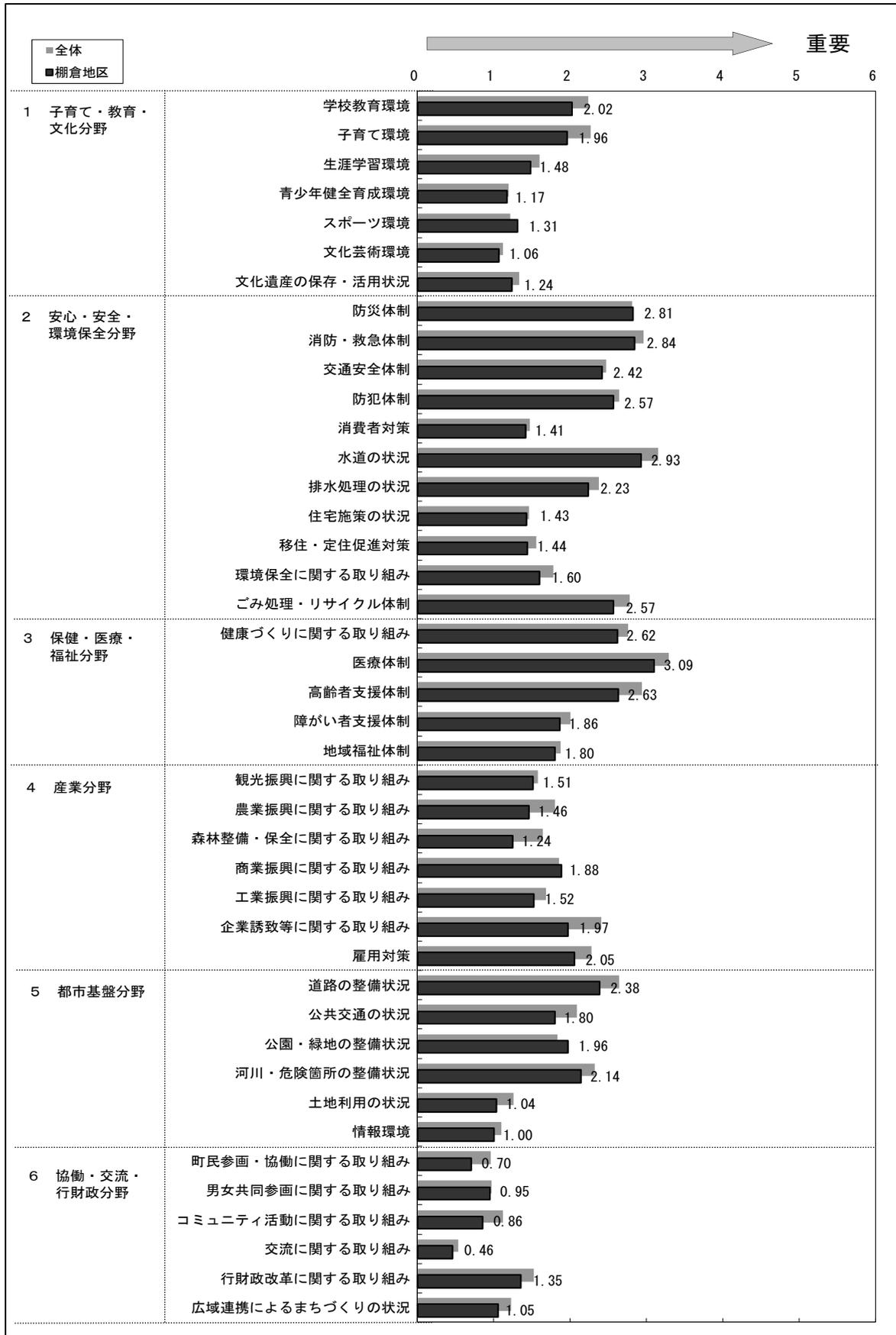
（単位：評価点）



図表 10 町の各環境に関する重要度（居住地区）

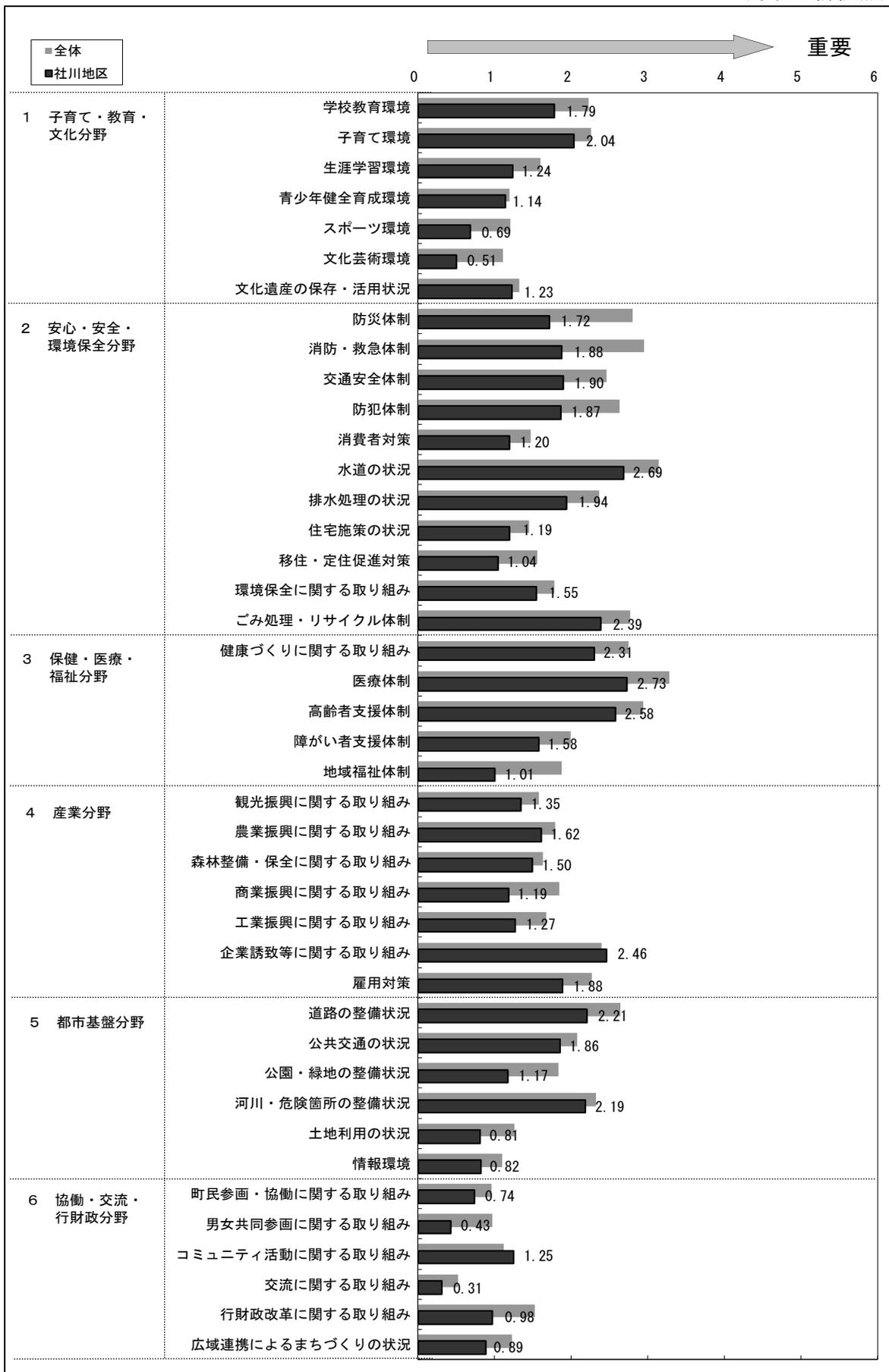
棚倉地区

（単位：評価点）



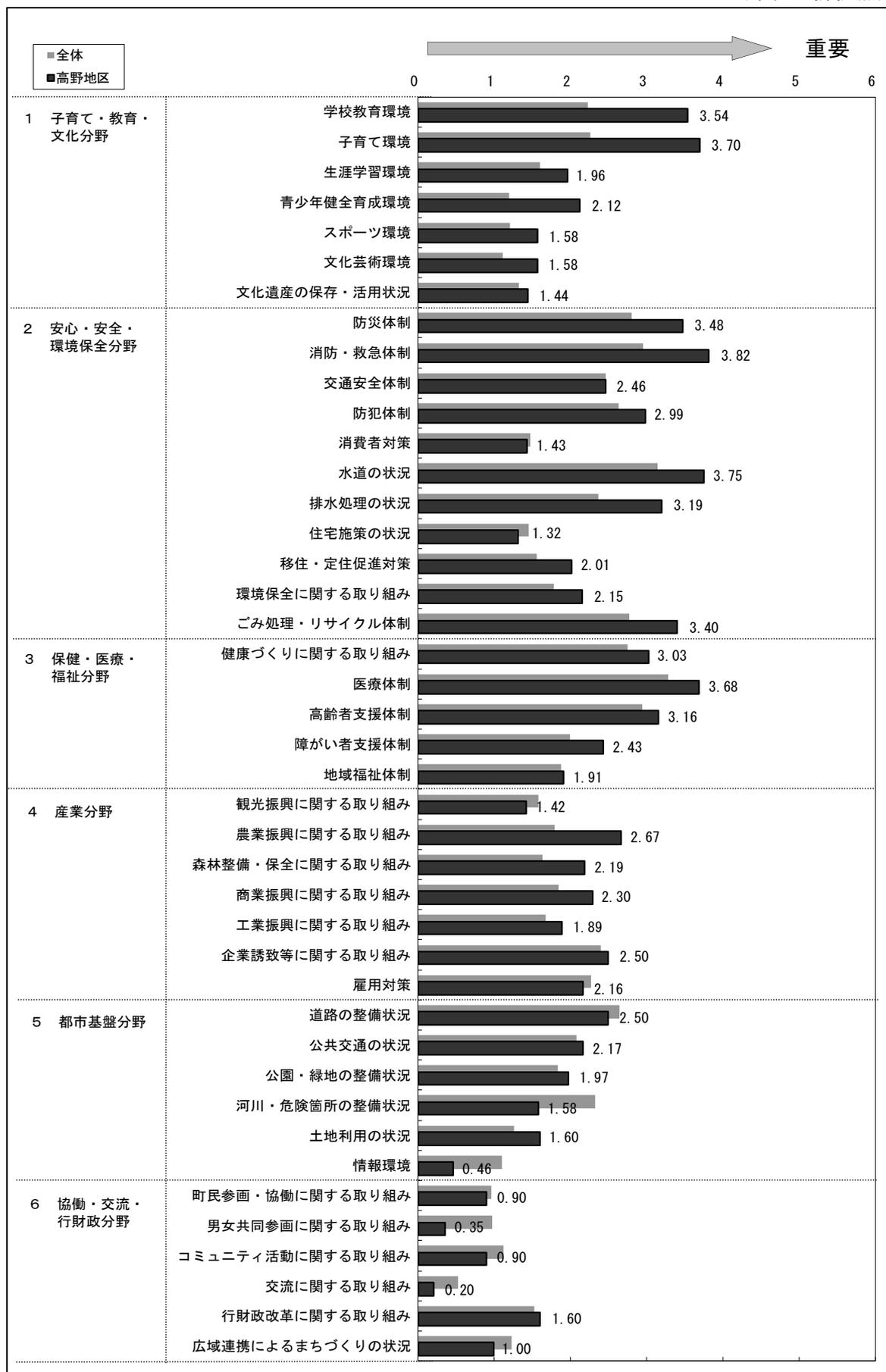
# 社川地区

(単位：評価点)



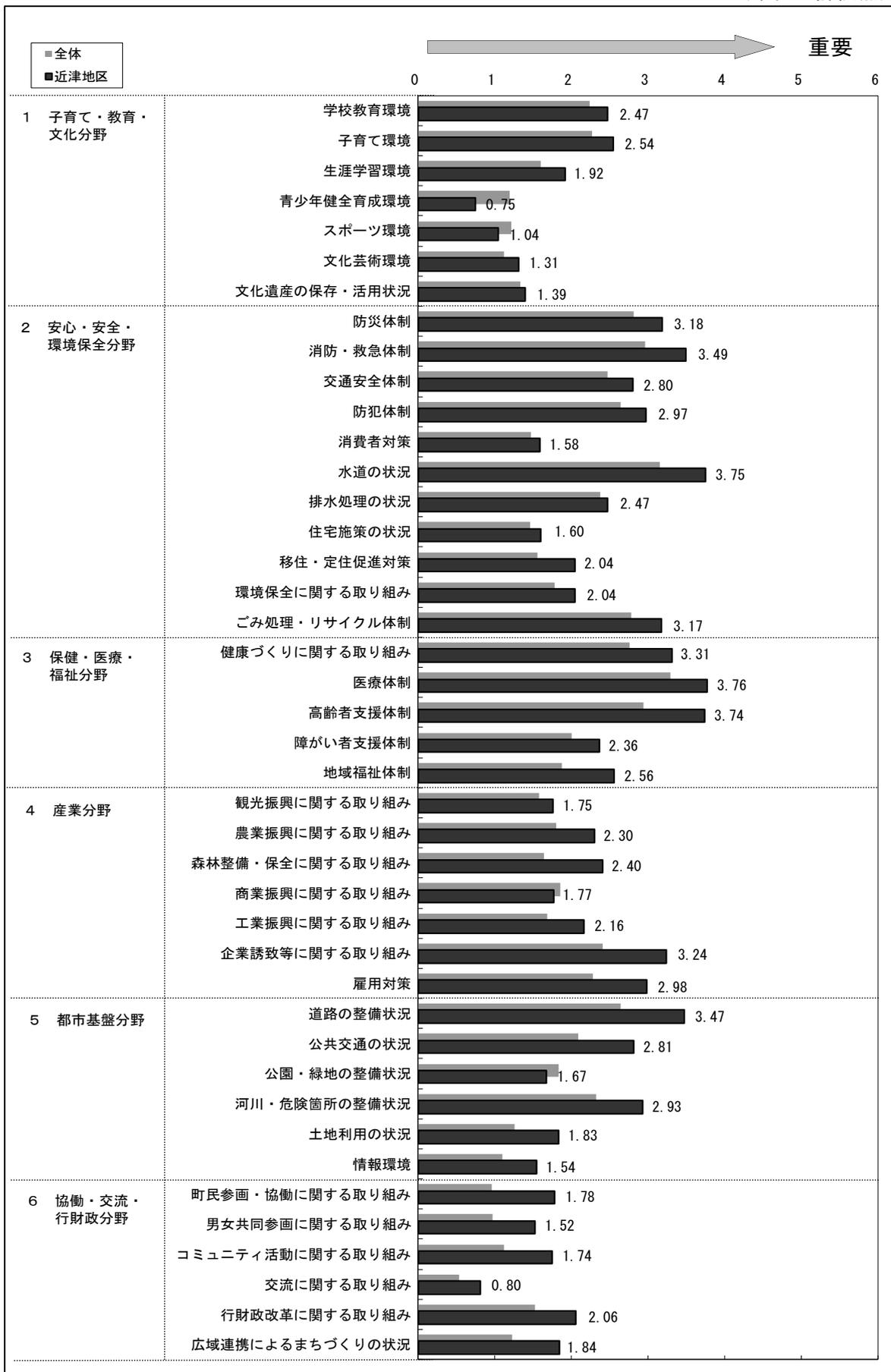
# 高野地区

(単位：評価点)



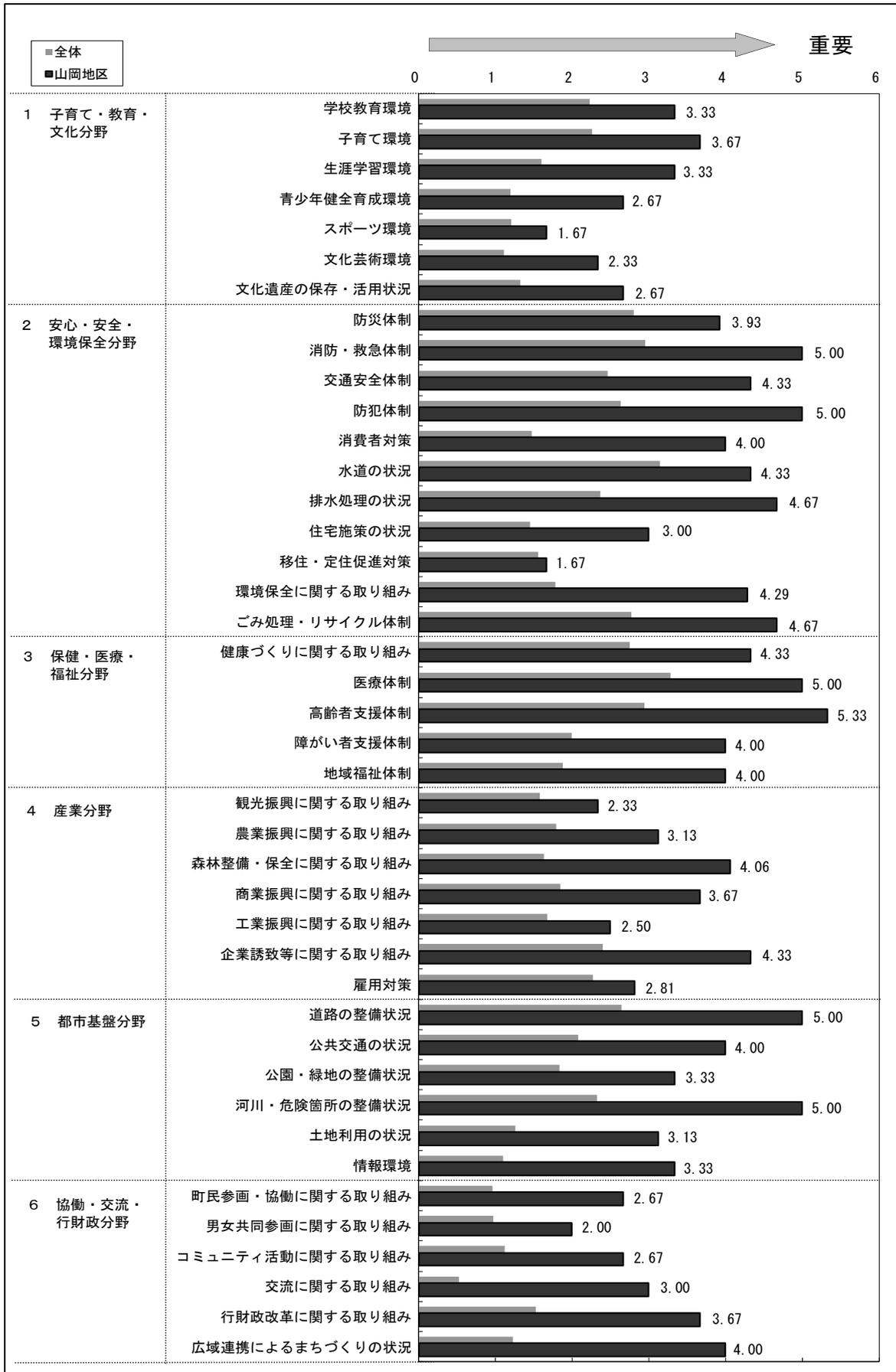
# 近津地区

(単位：評価点)



# 山岡地区

(単位：評価点)



### (3) 参考：満足度と重要度の相関 [優先度]

● 優先度が最も高いのは「企業誘致等に関する取り組み」、次いで「雇用対策」、「医療体制」の順。

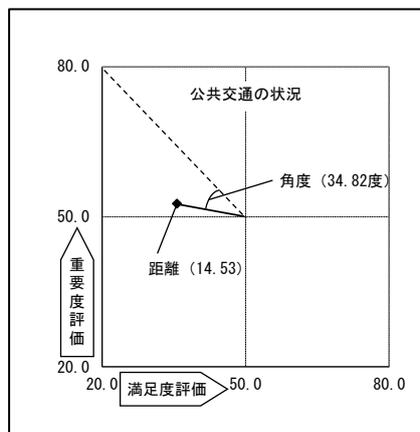
これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試み（参考）として、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図からの数量化 [下記参照] による分析で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

その結果、優先度が最も高いのは「企業誘致等に関する取り組み」（15.22 点）で、次いで第 2 位が「雇用対策」（11.75 点）、第 3 位が「医療体制」（10.29 点）、続いて「公共交通の状況」（8.91 点）、「商業振興に関する取り組み」（6.53 点）の順となっています。[図表 11・12 参照]

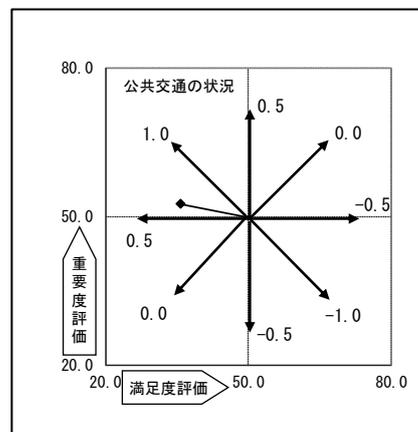
#### ※優先度の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。  
例：「公共交通の状況」→満足度偏差値 35.7…、重要度偏差値 52.6…
- ② ①で算出した偏差値から平均（中心）からの距離を算出する。  
例：「公共交通の状況」→ $14.53 \dots = \sqrt{(35.7-50)^2 + (52.6-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。  
例：「公共交通の状況」→34.82 度
- ④ ③で求められた角度から修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる。）  
例：「公共交通の状況」→ $0.6131 = (90-34.82) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。  
例：「公共交通の状況」→ $8.91 = 14.53 \dots \times 0.6131 \dots$

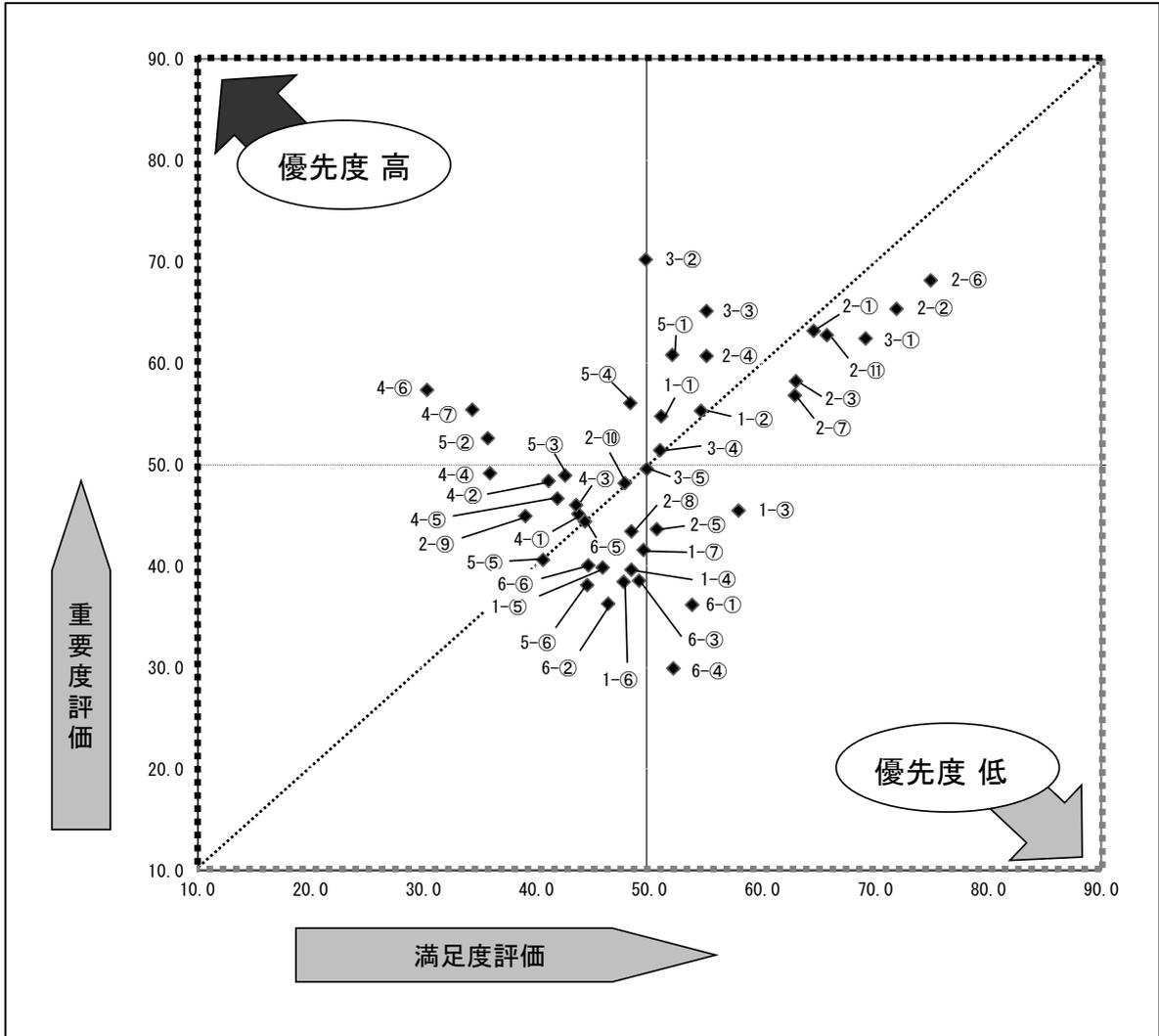
距離・角度



指数の設定



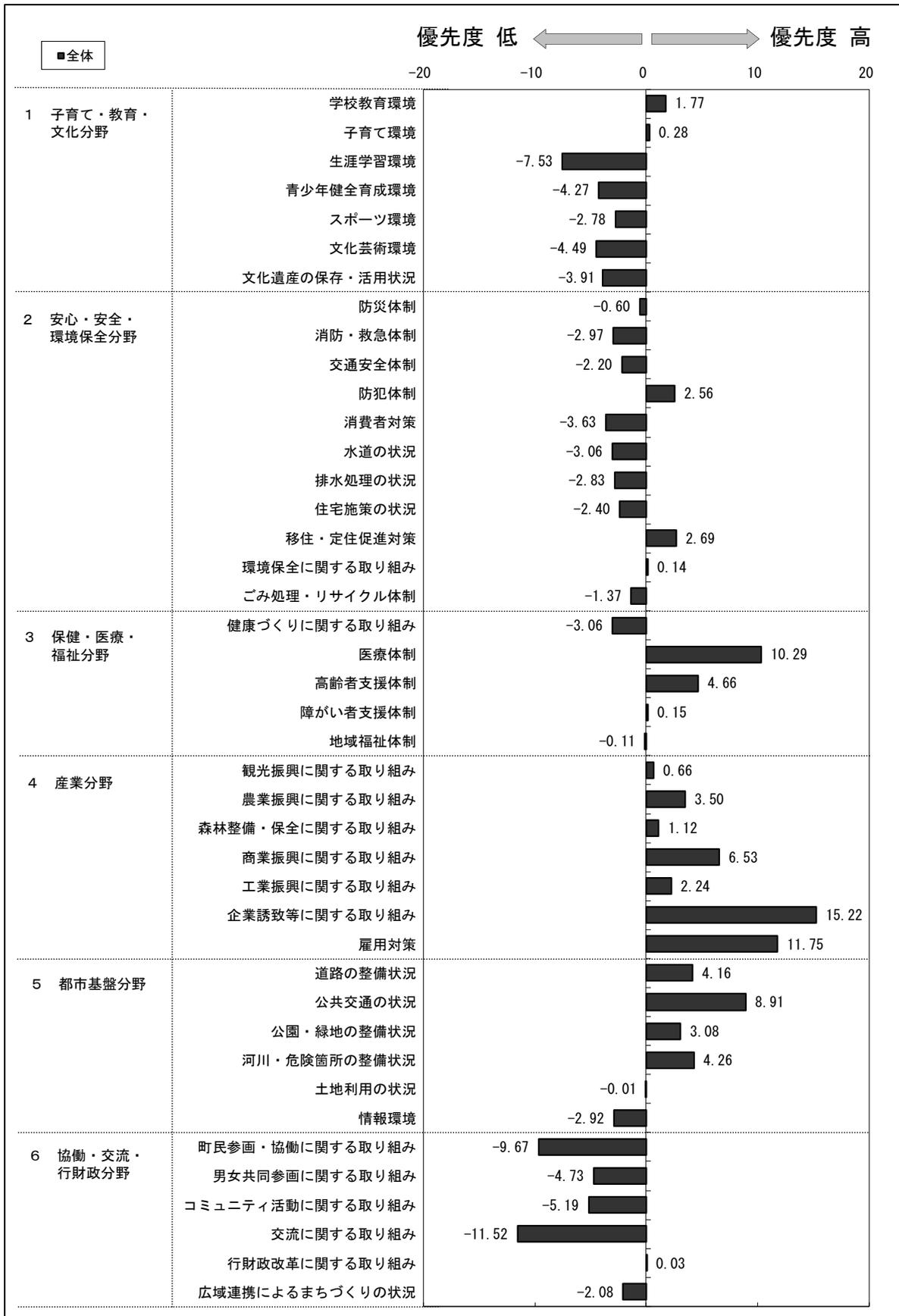
図表 11 満足度と重要度の相関 [優先度] (散布図)



優先度高い		優先度低い	
4-6 企業誘致等に関する取り組み	4-5 工業振興に関する取り組み	6-4 交流に関する取り組み	2-2 消防・救急体制
4-7 雇用対策	1-1 学校教育環境	6-1 町民参画・協働に関する取り組み	5-6 情報環境
3-2 医療体制	4-3 森林整備・保全に関する取り組み	1-3 生涯学習環境	2-7 排水処理の状況
5-2 公共交通の状況	4-1 観光振興に関する取り組み	6-3 コミュニティ活動に関する取り組み	1-5 スポーツ環境
4-4 商業振興に関する取り組み	1-2 子育て環境	6-2 男女共同参画に関する取り組み	2-8 住宅施策の状況
3-3 高齢者支援体制	3-4 障がい者支援体制	1-6 文化芸術環境	2-3 交通安全体制
5-4 河川・危険箇所を整備状況	2-10 環境保全に関する取り組み	1-7 文化遺産の保存・活用状況	6-6 広域連携によるまちづくりの状況
5-1 道路の整備状況	6-5 行財政改革に関する取り組み	2-5 消費者対策	2-11 ごみ処理・リサイクル体制
4-2 農業振興に関する取り組み		2-1 防災体制	3-5 地域福祉体制
5-3 公園・緑地の整備状況		2-6 水道の状況	5-5 土地利用の状況
2-9 移住・定住促進対策		3-1 健康づくりに関する取り組み	
2-4 防犯体制			

図表 12 満足度と重要度の相関 [優先度] (全体)

(単位：評価点)



#### (4) 今後のまちづくりの特色

問7 あなたは、今後のまちづくりにおいて、棚倉町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】

- 「安全・安心のまち」と「健康・福祉のまち」がほぼ同率で第1・2位、「子育て・教育のまち」が第3位。

今後のまちづくりの特色については、「安全・安心のまち」(52.8%)と「健康・福祉のまち」(52.7%)がほぼ同率で第1・2位、「子育て・教育のまち」(45.8%)が第3位で、これらは他を大きく引き離しており、“災害や犯罪、事故からの安全性の確保”と“保健・医療・福祉の充実”、“子育て環境・教育環境の充実”を望む人が多いことがうかがえます。

中学生アンケートと比較すると、ともに第1位は「安全・安心のまち」で、大人も子どもも、“災害や犯罪、事故からの安全性の確保”を強く望んでいることがうかがえます。

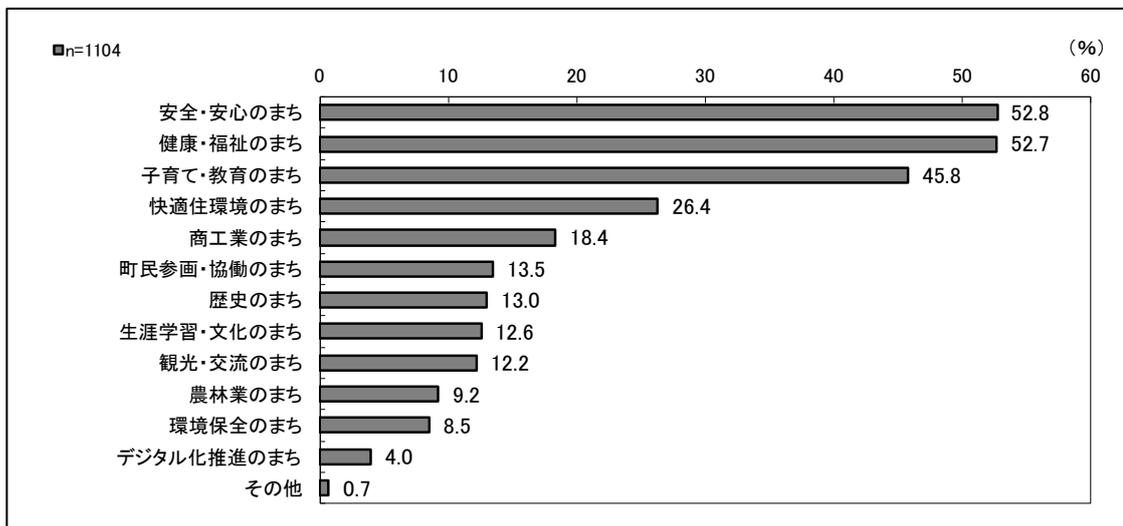
また、第2位以下をみると、町民では「健康・福祉のまち」、「子育て・教育のまち」、中学生では「観光・交流まち」、「快適住環境のまち」の順で、町民では“保健・医療・福祉の充実”と“子育て環境・教育環境の充実”、中学生では“観光・交流の充実”と“快適な居住環境の整備”を重視する人が多く、かなりの違いをみせています。

属性別でみると、多くの属性で町全体と同様に「安全・安心のまち」と「健康・福祉のまち」が第1位あるいは第2位ですが、10・20代、30代、40代と近津地区では「子育て・教育のまち」(50.6%・60.0%・56.2%・56.9%)が第1位になっており、40代以下の層と近津地区では、“子育て環境・教育環境の充実”が最も重視されていることがうかがえます。[図表13・14参照]

#### 【比較】

中学生アンケート 「安全・安心のまち」、「観光・交流のまち」、「快適住環境のまち」の順。

図表13 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



図表 14 今後のまちづくりの特色

(全体・性別・年齢・出身・居住地区—上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		安全・安心のまち 52.8	健康・福祉のまち 52.7	子育て・教育のまち 45.8
性別	男性	安全・安心のまち 52.5	健康・福祉のまち 50.2	子育て・教育のまち 47.3
	女性	健康・福祉のまち 54.6	安全・安心のまち 52.7	子育て・教育のまち 45.2
年齢	10・20代	子育て・教育のまち 50.6	健康・福祉のまち 37.6	快適住環境のまち 32.9
	30代	子育て・教育のまち 60.0	健康・福祉のまち 54.2	安全・安心のまち 50.0
	40代	子育て・教育のまち 56.2	健康・福祉のまち 45.0	安全・安心のまち 42.6
	50代	安全・安心のまち 54.0	健康・福祉のまち 47.9	子育て・教育のまち 41.7
	60代	健康・福祉のまち 60.9	安全・安心のまち 60.5	子育て・教育のまち 44.3
	70歳以上	安全・安心のまち 58.7	健康・福祉のまち 55.9	子育て・教育のまち 36.5
出身	町内出身	安全・安心のまち 54.2	健康・福祉のまち 52.1	子育て・教育のまち 45.0
	町外出身	健康・福祉のまち 53.9	安全・安心のまち 51.0	子育て・教育のまち 47.8
居住地区	棚倉地区	安全・安心のまち 54.2	健康・福祉のまち 52.1	子育て・教育のまち 45.0
	社川地区	健康・福祉のまち 53.9	安全・安心のまち 51.0	子育て・教育のまち 47.8
	高野地区	安全・安心のまち 52.4	健康・福祉のまち 52.2	子育て・教育のまち 42.7
	近津地区	子育て・教育のまち 56.9	安全・安心のまち 52.9	健康・福祉のまち 52.3
	山岡地区	安全・安心のまち 54.1	健康・福祉のまち 51.8	子育て・教育のまち 41.2

